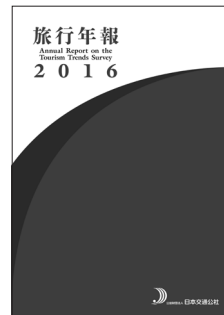


公益財団法人 日本交通公社 出版物のご案内

当財団では、調査・研究の成果を出版物として公開しています。ここで紹介している本はオンライン書店のAmazon (amazon.co.jp) でPOD (プリントオンデマンド印刷) の出版物として発行しています。

旅行年報2016 (2016年10月中旬発行)

1978年創刊の年報。観光に関する各種統計資料および当財団独自の調査結果をもとに、おおむね過去二年間の動向を概観しています。「日本人の旅行市場」「訪日外国人旅行」「観光産業」「観光地」「観光政策」の5編と「観光研究」「旅行年表・付属統計表」で構成。旅行・観光の動向分析に、全ページ、ホームページで公開 (2016年10月中旬)。A4判200ページ/本体価格2000円+税



旅行産業論 (2016年2月発行)

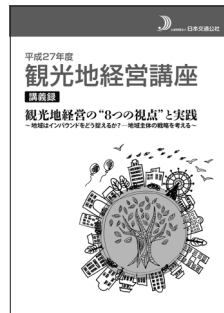
立教大学、(株)JTB総合研究所、当財団を中心に構成される「立教大学観光学部旅行産業研究会」。その研究会が、立教大学の講義内容をベースとして旅行業の体系的な整理を行い、書籍化したものです。実務的内容にとどまらず、旅行業全体を学術的かつ俯瞰的視点から解説しています。A5判



218ページ/本体価格2000円+税

平成27年度観光地経営講座 講義録 (2016年3月発行)

今回は「市場創出」に焦点を当て、特にアジアを中心とするインバウンド市場への対応について学びました。その中から国土交通省観光庁国際観光課外客誘致室長の佐藤久泰氏「我が国のインバウンド政策について」、岐阜県観光国際戦略顧問の古田菜穂子氏「地域におけるインバウンド対応策について」、信州白馬八方温泉しろま荘総支配人の丸山俊郎氏「宿泊の現場から見たインバウンドの現状と課題」、NPO法人シクロツーリズム



しまなみ代表理事の山本優子氏「インバウンドの視点からみた自転車旅行の可能性」の4つの講演内容を収録。ホームページでも公開中。※講師の所属・役職は講座開催時のものです。A4判76ページ/本体価格1000円+税

2015年度温泉まちづくり研究会 ディスカッション記録 (2016年7月発行)

「温泉まちづくり研究会」の2015年度の記録です。第1回「黒川温泉の魅力の根源にせまる〜黒川の「ふるさとらしさ」はどこから生まれるのか」。第2回「温泉地と災害を考える (第1部:日本の温泉地と火山活動の現状と予測。第2部:火山と向き合う温泉地の現場から)」。第3回「温泉地の雇用と人材の問題を考える」を収録。



全ページ、ホームページで公開中。A4判100ページ/本体価格1500円+税

当財団からのお知らせ

●2016年度 第26回旅行動向シンポジウム 開催

日時：2016年11月1日（火）・11月2日（水）

我が国の旅行・観光の動向 ～『旅行年報2016』より～

最新版『旅行年報2016』（2016年10月発行）の内容をもとに、「日本人の旅行市場」「観光産業・観光地の動き」「観光政策」「訪日外国人（インバウンド）の旅行市場」の動向について、当財団の独自調査を複数まじえ、執筆した研究員よりご報告いたします。

※本年は10月3日（月）にリニューアルオープンした「旅の図書館」と一体化した当財団ライブラリーホールで実施します。時間など詳細はホームページで順次ご案内させていただきます。 <https://www.jtb.or.jp/>

「研究員コラム」の紹介

当財団のホームページで連載中の「研究員コラム」。その最新10本のリストです。研究員のユニークな“視点”をご一読下さい。毎週月曜日の更新です。

- No. 308 観光研究図書の独自分類から見えてきたこと 大隅一志
新装「旅の図書館」は、“観光の研究と実務に役立つ図書館”を目指しています。その取り組みの一つとして構築したのが観光研究資料の独自分類。その効用と、独自分類から見える近年の観光研究の傾向とは……
- No. 309 男性的なイメージのレジャーと女性的なイメージのレジャー 柿島あかね
初めて競馬場に行く機会がありました。実際に訪れてみると、有名店のスイーツが並ぶおしゃれなカフェでは女性グループやカップルがくつろぎ、パドック周辺はレースに出る馬を見る親子連れで賑わって……
- No. 310 外国人観光客の立場で考えたこと 門脇菜海
とある観光地で地元の方と打合せをしていた時のこと、話題は増え続ける外国人観光客のことに。「ちゃんと話さなきゃって身構えてしまう人が多いんだけど、話せなくても、身振り手振りや表情で十分伝わるんだよね。」この言葉を聞いた私は、一週間前の自分の体験を思い出して……
- No. 311 訪日ビギナー観光客が市場拡大を牽引 ～訪日市場5年間の客層変化を振り返る 川口明子
観光庁が実施している「訪日外国人消費動向調査」が2016年で7年目を迎えました。この調査では、客層の実態調査も同時に行われています。このデータを活用して、2011年から2015年までの5年間にわたる訪日市場の客層変化を見てみると……
- No. 312 ポケモンGOをプレイしてー観光地の動きと今後の可能性ー 川村竜之介
本コラムでは以前に、相澤主任研究員が「位置ゲー」について、吉谷地主任研究員が「仮想現実（VR）・拡張現実（AR）」技術について紹介しました。その「位置ゲー」と「拡張現実」の両者を組み合わせたスマートフォンゲームアプリ「ポケモンGO」が世界中で大ブーム……
- No. 313 観光分野における我が国の国際貢献（その2） 菅野正洋
Asia Pacific Tourism Association (APTA) の年次大会に参加し、研究活動を通して得た知見を発表してきました。前回のコラムで観光分野における我が国の国際貢献やプレゼンス向上の可能性に関して述べましたが、今回も同様に所感を述べてみたいと思います。
- No. 314 38年前の「旅の図書館」パンフレットから 久保田美穂子
キャビネットの奥から、発行順に整理された昔の図書館パンフレットが出てきた。古地図や古代美術の彫刻写真を表紙に使った格調高い雰囲気に興味を惹かれ開いてみると……
- No. 315 「国立公園」と「世界遺産」、どちらが人気? 五木田玲子
環境省が進めている「国立公園満喫プロジェクト」は、日本の国立公園を世界水準の「ナショナルパーク」としてブランド化することが目的。7月には、訪日外国人を惹きつける取組を先行的・集中的に実施する8つの国立公園が選定されました。ところで、「国立公園」は諸外国において、日本人にとって人気のキーワードである「世界遺産」と比べて、どのような位置付けなのでしょうか。
- No. 316 まちづくりと観光事業の間にある壁⑥ 後藤健太郎
本コラムでは、「観光まちづくり」をあえて“まちづくり”と“観光事業”の二つの側面に分けて、「まちづくりと観光事業の間にある壁をどう乗り越えるか」を大きなテーマとしたいと思います。「例えば京都市と比べると全部負ける」。今回は川端五兵衛氏のこの言葉を通して、まちづくりと観光について改めて考えたいと思います。
- No. 317 自動運転車が変わる観光の未来 塩谷英生
2013年の秋に行った自主調査で「これからの国内宿泊旅行市場が拡大していくために 必要性が高いと思う施策を選んでください」という質問をした（対象は全国の旅行好きで発信力のあるオピニオンリーダー層）。結果は……